

多摩産材で 雑貨商品化

木材削った「経木」利用

男性3人 林業活性化願

多摩地域で建材卸売業や注文家具会社を経営する30代の3人が、多摩産の材木を利用したインテリア雑貨を商品化した。多摩生まれの木を少しでも多く消費し、森林事業が活性化することを願っている。木材の価格が高いため、薄く削った「経木」にしてデザインしたのが特徴だ。雑貨の売り上げの一部は、都内の植林活動のために寄付する。

多摩産材のスギやヒノキは従来、住宅の柱などに利用されてきたが、安い輸入材に押され、消費が伸びない結果、手入れができず、森が荒廃している。そのため、瑞穂町の建材卸業「東和通商」の常務、中野歩さん(32)が「建材よりも、もっと気軽に買ってもらえる商品を作ることではできないか」と考え、取引先の高級注文家具会社「KOM A」の社長、松岡茂樹さん(32)に相談した。2年前のことだった。

その時は、多摩産材は表面に傷がつきやすいため、松岡さんは「家具を作るのは難しい」と断った。

しかし翌年、家具製造業の仲間の工場に行くと、電気が消え、休業していた。社長が金策に走っている所もあった。不況の波にのまれていたのを実感し、「仕事の注文を待っているだけではダメ。何か自分たちで発信していくことが必要」と思い直した。同じ会社の



家具の製作に取り組んだ。イスなどを試作したが、細い線を出すことができなかった。デザインのにも問題があった。その後も、漆を塗ったカップやティッシュケースを作ってみたが、多摩産材が高価なため、コスト

がかかりすぎた。

そこで目をつけたのが、薄く木材を削った「経木」を使うことだった。中野さんの知人から、今年4月のイベントの記念品として写真立ての注文が舞い込んだ。細長い紙のような経木を布で補強し、丸めてボタンの留めたものを作ってみた。ペンスタンドやトイレトーパー入れなどとしても利用でき、好評だったため、商品化を決めた。

松岡さんは「日本でも多くの木を植えることができればありがたい」と話している。

1500円(税込み)。ホームページ <http://www.madeinmuk.yodobashi.co.jp> から購入できる。問い合わせは、KOM A内のプロジェクト事務局(042・531・5995)へ。



展示作品の一つ「誇らしい瞬間」(府中市美術館で)

画展

米国の国民的イラストレーターとして知られるノーマン・ロックウェル(1894~1978年)の作品を集めた企画展が19日、府中市美術館

「毒ぶどう」酒事件 奥西死刑囚を支援

あす国分寺で集

三重県名張市で1961年に起きた「名張毒ぶどう酒事件」で無罪を求めている奥西勝死刑囚を支援する集いが21日、国分寺労働会館(国分寺市南町)で開かれる。冤罪事件を支援する「日本国民救済会」の三多摩総支部が主催する。

この事件は、農薬入りの